

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「家庭教育支援事業」(宮城県石巻市)

取組の概要や経緯

- ・家庭教育支援・・・家庭教育学級の開設、家庭教育支援チーム活動

石巻市は東日本大震災で大きな被害を受け、子育て環境にも大きな影響を受けた。親子の居場所作りや心のケア、コミュニティの再構築が急務となったことを背景に、子育てサポーターや子育てサポーターリーダーが中心となって平成23年9月から家庭教育支援活動をはじめ、行政や子育て支援団体等との協力により、継続的に支援を続けている。

内容

家庭教育支援：
家庭教育学級の開設
家庭教育支援チームによる事業の展開

- (1) 家庭教育学級
市内全・小中学校及び保育所、
幼稚園等で実施
- (2) 家庭教育支援チームによる活動
子育てサロン、家庭教育学級講師、
託児の実施

ポイント

- ・家庭教育学級の開設
小・中学校だけでなく私立の幼稚園など
へ家庭教育学級開設について働きかけている。
今年度は、合同学習会について4回開催。
- ・家庭教育支援チーム活動
スタッフを身近な存在として感じ、気軽に
育児相談できるような雰囲気づくりを大切
にしている。



↑ 開催された家庭教育学級の様子

成果

- ・家庭教育学級の開設により、家庭の教育力を高めることに寄与し、
保護者同士のネットワーク作りが図られた。
- ・子育てサロンの開催により、親子及び親同士の交流を深めること
ができ、子育て世代の孤立化防止が図られた。

今後の方向性

- ・家庭教育支援事業は、家庭教育支援チームの活動により
支えられている。チーム員の人材育成を重点に置きながら、
今後も継続して子育て支援活動を展開できるようにボラン
ティアの確保に努める。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「塩竈市子育てサポーター養成講座」(宮城県塩竈市)

取組の概要や経緯

学校や地域から家庭教育力の低下を危惧する声があり、地域全体での子育て支援や家庭教育支援の必要性が高まっている。

令和4年度、子育てや家庭教育の地域の支援者の育成を目的に、子ども未来課と連携し子育てサポーター養成講座を開催した。

内容

全4回の講座では、「子育て支援と家庭教育支援の理解」「親子の理解とかかわり方」「総合的な理解」について大学教授や専門家からの講義と、「やってみたい支援」をテーマにワークショップに取り組んだ。また、宮城県版親の学びのプログラム「親のみちしるべ」の体験を行った。

ポイント

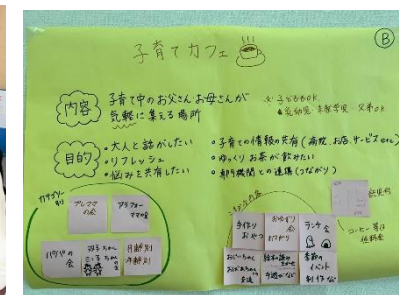
- ①子ども未来課との連携
- ②家庭教育支援チームや子育て支援サークルによるサポート
- ③「やってみたい支援」をテーマとしたワークショップ
- ④子育て支援と家庭教育支援におけるフォローアップ

成果

○ワークショップ「やってみたい支援」で考えたママカフェを修了者たちで開催したり、子育て支援の活動に参加したりとその後の活動につながっている。

○家庭教育支援チームや子育て支援サークルのメンバーにとっての活躍の機会となり、各自の学びにもなった。

○子ども未来課との連携により互いの取組について理解ができ、今後の活動に広がり生まれた。



今後の方向性

【他の課や関係団体、機関と連携】

→講座内容の充実

→フォローアップ体制の充実

【家庭教育支援チームの育成】

【家庭教育支援の充実

～宮城県版「親のみちしるべ」の活用】

・小学校入学説明会等での実施

・出前講座

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「子育てほっとサロン」(宮城県気仙沼市)

取組の概要や経緯

家族が安心して子育てに参加できるよう、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制づくりを推進するとともに、地域の有識者、子育て経験者、子育て支援団体及び親同士の意見交換や情報共有を行うことで、育児負担感を感じさせないための支援活動を継続的に実施する。



内容

多くのつながりの中で家庭教育が行われるよう「子育てほっとサロン」や「家庭教育学級」など親子の育ちを応援する仕組みを充実させる。

- ①有識者による基調講演，朗読劇，コンサートの実施
- ②体操等を取り入れた親子の関わり合い活動
- ③家庭教育支援チーム員による意欲的な活動
- ④ジュニア・リーダー，ちびっこサポーターの協力を得た幼児対応の実施



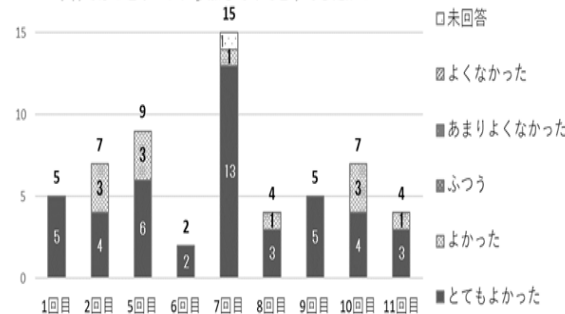
ポイント

- ①感染対策を十分に施した環境で行う少人数でのアットホームな雰囲気づくり
- ②専門的な講師による多彩な講話や親子参加型のプログラムの実施
- ③子育て世代への学びの場の提供，親同士が交流し合う場の提供から生まれる学び合いによる子育ての仕組みづくり

成果

- ・コロナ対策のため参加人数を制限しての開催としたことで、参加者は安心して参加することができた。
- ・少人数での実施だったため、より具体的な相談や情報提供を行うことができた。
- ・子育てを通じた親子の関わり合いが深まり、親同士、親と講師とのコミュニケーションが充実した。

子育てほっとサロンに参加してみようでしたか？



今後の方向性

- ・ 託児業務を外部団体に委託することで、より安心かつ講座に集中できるような体制整備を行う。
- ・ 感染症対策を十分に行った上で、参加の定数を増やし、より多くの保護者への支援活動を行う。
- ・ 家庭教育支援チームによる支援の実践機会を増やすことでチーム員の有効的な活用と支援体制の充実を図る。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域学校協働活動の取組事例

「親子に寄り添い共に学ぶ家庭教育支援」(宮城県白石市)

取組の概要や経緯

平成26年度に結成した家庭教育支援チームの活動を中心に、家庭教育の講座等を行い、親の学びの機会を作ってきた。
また家庭教育支援チーム員の研修も平成26年度より継続して行いスキルアップを目指している。

内容

「親の学びのプログラム出前講座」では、しろいし家庭教育支援チーム「ペアレントらん」が講師を務め、小学校で行われる一日入学説明会の機会を活用し、未就学児の保護者向けに、入学における不安等を保護者同士で考える出前講座を実施している。また、将来親になる中学生に対し、妊婦疑似体験や赤ちゃん体験を通して、命の尊さ・親への思いを考える出前講座を実施している。

ポイント

- ・学校行事等必ず保護者が参加する場に出向いて講座を行うこと。
- ・答えを示すのではなく、参加者が自分で考え、気づいてもらえるように心がける。
- ・子連れの参加者が安心してプログラムに集中できるよう、子どもを見守る人員も用意する。

成果

- ・コロナの影響により、活動を縮小せざるを得ない状況ではあったものの、感染対策を行いながら出前講座を実施することができた。
- ・中学校の出前講座では、生徒から命の重さや大切さ、自分を支えてくれる人への感謝の言葉を聞くことができ好評であった。



今後の方向性

- ・来年度も引き続き家庭教育支援チームの出前講座を行う。
- ・未実施の学校、保育園・幼稚園等についても働きかけをしていく。
- ・未就学児を対象にした講座でも、親の学びのプログラムや保護者の情報交換の場を盛り込んだプログラムを考えていく。



「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「保護者を支える家庭教育支援活動」(宮城県名取市)

取組の概要や経緯

少子化や核家族化などに伴い、家庭を取り巻く課題が複雑化・深刻化する傾向にある。様々な課題解に向けて、**親子で参加する交流機会**の提供、**子育てサポーター養成講座の開催**、公民館や児童センターと連携した**家庭教育講座・保護者の交流**を行い、子育て・家庭教育の包括的な支援を目指している。



内容

- ・家庭の教育力の向上を図るため、「子育て・親育ち講座(親子参加型の家庭教育に関する各種講座、学習会等)」を開催する小・中・義務教育学校を対象に学習活動を支援する。
- ・名取市子育てサポーター養成講座を開催し、**安心して子供を生き育てることができる地域環境づくりの促進と地域で活躍できる人材の育成**を図る。
- ・親子参加型のイベント「移動交流サロン」、**保護者の学びと交流の場を提供**する家庭教育講座を開催する。



ポイント

- ①子育てサポーター養成講座は全5回で設定。**今日の家庭・親子を取り巻く問題に幅広く触れることができるような講師を依頼・講座内容**にする。
- ②移動交流サロンや家庭教育講座は、公民館や児童センター等の市内施設を活用するとともに、**家庭教育支援チームと連携**して準備や当日の運営を行っている。

成果

- ・「子育てサロン」「子育てサポーター養成講座」の参加者に行ったアンケート調査での満足度は、両講座とも肯定的な意見が100%と好評であった。
- ・子育てサポーター養成講座修了者が「今回の学びを生かしたい」「自分の経験を伝えたい」という思いを持ち、参加した全員が支援チームに登録していただいた。

今後の方向性

- 子育て・家庭教育支援について、柔軟に・包容力を持った活動を続ける。
- 家庭教育支援チームがより自立したチームとなるように、研修会等への参加を促すとともに、定例会においてもスキルアップを図るトレーニングを取り入れる。
- 公民館・児童センター・保健センターと連携し、幅広い世代・地域を対象とした家庭教育講座を実施できるようにする。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「家庭教育支援事業の取組事例」(宮城県角田市)

取組の概要や経緯

- 市内全域の保護者を対象にした事業を家庭教育支援チームと運営していくことにより、参加者同士や地域住民とのつながりづくり、家庭教育支援チーム活動の展開を目指している。
- 関係機関との情報共有の場を設け、より充実した家庭教育支援を行うための仕組みの整理を行う。

内容

- 家庭教育支援事業「ふぁみふぁみ」(全4回実施)
 - ①「まっくらやみのたからさがし」
 - ②「おひるねアートとフルーツサンドでおしゃれカフェ」
 - ③「第1回リトミック」
 - ④「第2回リトミック」
- かくだ家庭教育支援チーム活動
家庭教育支援事業「ふぁみふぁみ」の運営協力
- 家庭教育学級
市内保育施設で実施する家庭教育支援事業に対して、講師謝金の面で支援を行う。

ポイント

- ①参加の敷居を低くし、講座参加へのきっかけづくりや親子の愛着形成、保護者同士が交流する場を創出している。
- ②地域住民の協力と参加者の交流に重点を置き、交流が継続するよう努める。
- ③今まで事業に参加したことがない人の参加を促すため、参加しやすい内容の設定や保育施設等への周知依頼、ホームページ上で周知を行う。

成果

- おしゃれで心地良い空間をつくることで、子どもと一緒に楽しめ、親子の愛着形成を図ることができた。アンケート結果では、「また参加したい」という意見が多かったため、子育て中も楽しめる時間をつくれたのではないかなと思う。
- 家庭教育支援チーム員も参加者と交流し、地域の人との繋がりづくりの場ともなっている。



ふぁみふぁみ「子育て講話」



ふぁみふぁみ「おひるねアート」



ふぁみふぁみ「リトミック」

今後の方向性

- 家庭教育支援関係機関との連携、情報共有の場の創出
- 家庭教育支援事業の周知
- 対象者の意向確認や事業の目的を明確にし、年次計画を行う。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「学校・家庭・地域の連携による教育力向上」(宮城県多賀城市)

取組の概要や経緯

【家庭教育支援活動】

学校・家庭・地域による相互の連携が求められる中、その一端を担う、家庭での教育の重要性が高まっている。そのため、子育て、食育等に関する家庭教育講座を実施したり、家庭教育支援チーム員による相談活動等を行ったり、家庭での教育力(親教育力)の向上を図る。

内容

【家庭教育支援活動】

- ・小中学校で子育て等に関する講座を実施
- ・家庭教育支援チーム員による親の学び講座、相談活動 等

ポイント

- ・市内小中学校の入学説明会や就学時検診等を活用し、多くの保護者が参加しやすいようにしている。
- ・各学校の年間行事の中で、柔軟に計画しやすいように期間を広げたり、中学校区毎の地域ぐるみ生徒指導の講演会やフリー授業参観での家庭教育講座を実施するなどの工夫をしている。

成果

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、家庭教育講座を実施することができなかった。
- ・親子参加型の家庭教育講座を「星を見る会」を実施した。政庁跡で1300年の歴史を感じながら、星空観察を行い、星座に関する知識を増やすなど親子で触れ合いながら学ぶ機会を提供できた。

今後の方向性

- ・親子参加型を含め、保護者や地域の実態やニーズに合わせた講座の実施を検討する。
- ・家庭教育支援チームとの連携を強化し、年間を通して親の学びの機会や相談活動などを実施できる体制を構築する。



多賀城政庁を舞台に星座観察



親子で触れ合いながら観察



月、木星、土星などを観察

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「地域ぐるみの教育支援」(宮城県登米市)

取組の概要や経緯

子育て中の親に親としての「学び」や「気付き」の機会を提供するため、平成30年度に家庭教育支援チーム「登き米き」を設立し、現在、子育てサークルや読み聞かせボランティアで活動している17名で活動している。

また、チーム員の多くが市子育てサポーターを兼務しており、子育てを理由に社会教育事業への参加を見送っていた保護者に対し、事業中の一時託児をすることで、子育て世代の事業参加を推進する「子育てサポート事業」を実施している。

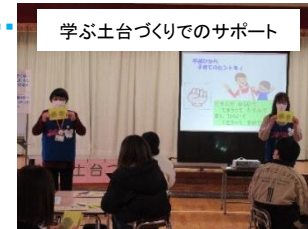
内容

①家庭教育支援チーム

- ・チーム単独で事業が企画・運営できるよう、チームのスキルアップに向けて、定例会のほか、県家庭教育支援チーム協議委員を講師に招き研修会を実施
- ・東部教育事務所主催の学ぶ土台づくり親の学び研修会でのサポート活動

②子育てサポート事業

- ・公民館等事業において、保護者が安心して参加できるよう未就学児の一時託児を実施



学ぶ土台づくりでのサポート

定例会でのアイスブレイク資料づくり



ポイント

- ①チーム員それぞれが別のサークルで活動しているため、定例会での情報共有の時間を大切にするほか、得意分野を生かした役割分担をするように心がけている
- ②一時託児をすることで、保護者が子どもと離れる時間をつくり、自身の学びに集中できるよう支援している

今後の方向性

- ①コロナ禍で中止となっていた事業の再開に向けて、チーム員のネットワークを借りながら、小学校一日入学での「親のみちしるべ」実施など、アウトリーチ型の支援を展開できるようファシリテーションスキルの向上を支援する
- ②子育てサポート事業の認知度が低いため、周知をしていく

成果

- ①今年度開催した県家庭教育支援チーム協議委員による研修会では、コロナ禍でもできる支援内容を学び、チーム員のスキルアップを図った。また、他市家庭教育支援チームとの合同研修会に参加し、アイスブレイクの紹介をし合うほか、プログラムづくりの演習を経て、登米市ならではの支援体制の構築に近づくことができた。
- ②公民館等での参加者募集に活用してもらい、託児要請があったのは1事業のみだったが、子育て世代が安心して学ぶことのできる時間づくりに寄与できた。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「できることを、できるときに、できるところから、みんなで育もう栗原っ子」(宮城県栗原市)

取組の概要や経緯

本市においては、子育てや子どもとの関わり方への不安をもつ保護者が少なくなく、悩みを抱えていても、身近に子育てや家庭教育に関する相談をする場も限られている。
こうした状況を踏まえ、栗原市家庭教育支援チームが中心となり、子育てについての学習機会や保護者同士の情報交換、親子の交流や触れ合う場を設けるための学習会等を開催し、家庭の教育力を高めるよう努めている。



内容

- 保護者を対象とした親の学びの機会となる講習会や情報交換会、親子触れ合い活動等の家庭教育学級の開催を推進する。
- 保・幼・小・中学校、及び義務教育学校において開催される家庭教育学級、一日入学等学校からの要請に応じて講師謝礼を助成する。



ポイント

- 宮城県が進める「学ぶ土台づくり」の一環として、栗原市家庭教育支援チームを中心に、県教委で作成した「親のみちしるべ」を活用した「親の学び研修会」を実施。
- 各学校等からの要請で、子どもの躰けや子育てについて考える機会を提供する家庭教育学級を行う。



今後の方向性

- 宮城県が進める「学ぶ土台づくり」の「親のみちしるべ」を活用した「親の学び研修会」の実践をもとに、保護者への学びの場の提供をさらに図っていく。
- 地域人材の発掘に取組み、高齢化が進む支援チーム員の増員を図っていく。
- 各支援員が自信をもって活動に取り組むことができるように、各種研修会への参加の促進や、準備時間の確保に努める。

成果

栗原市家庭教育支援チームが中心となり、家庭教育学級等への支援に積極的に関わることで、不安や悩みを抱える親に対して寄り添う活動ができた、子どもの健全な育成に寄与したりすることができた。また、各学校等と連携し講師謝礼事業に取り組むことで、親子がふれあう場作りを促進した。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「メンバーの個性を活かした家庭教育支援」(宮城県大崎市)

取組の概要や経緯

地域で安心して子育てができるよう、子育てに関する悩みを共有できる場を提供するとともに、地域全体が家庭教育に関する認識を高め、地域ぐるみで子どもを育てる気運の醸成を図る。



内容

- 親学びサロン・・・小学生以下の保護者を対象とした、家庭教育に関する託児付き講座の実施
- 家庭教育出前講座・・・子育て支援センターや幼稚園、小中学校等へのアウトリーチ型講座の展開
- スキルアップ研修会・・・家庭教育支援に関する知識、技術の向上を目指した研修会の実施
- 家庭教育支援チーム定例会・・・メンバー間の情報共有と、メンバーの持つ知識や技術の伝承



ポイント

- ①セミナー型の家庭教育講座のほか、子育て支援センター等 民生部局との連携を図り、アウトリーチ型の講座を推進
- ②家庭教育支援チームメンバーの知識や経験を活かした自主研修会を実施することで、多様なスキルを共有



今後の方向性

成果

- 子育て支援センター等へのアプローチにより、アウトリーチ型家庭教育講座の回数が増加し、家庭教育の重要性に対する認識を広めることができた。
- 家庭教育支援チームメンバーの情報共有が図られ、コミュニケーションがとりやすい組織運営がなされている。

- 他部局や小中学校への呼びかけを強め、アウトリーチ型の家庭教育講座の機会をさらに広げていく。
- 家庭教育支援チームメンバーが固定化しないよう、支援者発掘と育成に努め、家庭教育支援の裾野を広げる。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「公民館:幼児教育事業」(宮城県富谷市)

取組の概要や経緯

富谷市は「子どもにやさしいまちづくり」を掲げ、富谷市子育て支援センターを中心に、子どもたちのための市政を推進している。そのなかで教育委員会としては、公民館において「幼児教育事業」として1～3歳児を対象に、親子の歌遊びや手遊び、親子のふれあいをテーマに各公民館において、事業を実施している。

内容

富ヶ丘公民館(にこにこ学級)対象:2、3歳児
日吉台公民館(うきうき学級)対象:1歳児
東向陽台公民館(のびのび学級)対象:1～3歳児
成田公民館(アイアイ学級)対象:1歳児

【内容】親子の歌遊びや手遊びなど、発育に合わせた事業を実施している。また、親子のふれあいをテーマとした事業も合わせて実施している。



ポイント

- ①……専門講師を招き、発育に合わせた楽しい時間をすごすことができる。
- ②……身近な公民館で実施することができ、地域密着の幼児教育ができています。
- ③……親子のふれあいを重視し実施している。

今後の方向性

- ・参加者が減ってきているため、さらなる広報などの周知を実施し、家庭教育の場を提供する。
- ・真に家庭教育の場を必要とする方が来やすくなる場を提供する。
- ・幼児教育においてもメニューを変えるなどバラエティーを増やす必要がある。

成果

- ・親子どうしのふれあいを深めることができた。
- ・発育に合わせた遊びを提供できた。
- ・地域で子育てできる環境であることを示すことができた。

公民館	学級名	対象年齢	申込組数	開催日数
富ヶ丘公民館	にこにこ学級	2～3歳児	9組	6日
東向陽台公民館	のびのび学級	2～3歳児	15組	6日
		1歳児	8組	5日
あけの平公民館	すくすく学級	2～3歳児	-	-
		1歳児	3組	-
日吉台公民館	うきうき学級	2～3歳児	-	-
		1歳児	8組	5日
成田公民館	アイアイ学級	2・3歳児	-	-
		1歳児	9組	5日

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「子育てサポーター すまいるハート」(宮城県蔵王町)

取組の概要や経緯

蔵王町では、平成27年5月から子育てサポーターチーム「すまいるハート」が活動している。チーム名には「心から笑顔で!」という意味が込められ、サポーターたちは県の養成講座で習得した知識や自身の子育て経験を活かしながら子育て中の親を支えている。

内容

(1) 託児支援

行政による様々な事業で、依頼があった際に託児支援を行った。

(2) メッセージカードづくり

初めての取り組みとして、すまいるハートの活動周知のために手作りメッセージを制作し、乳幼児健診にて配布。折り紙を使用したり、シールを貼ったりサポーターの思いを込めたカードになった。

ポイント

- ① 2か月に1、2回打ち合わせ会が行われ、イベントの企画や情報交換を行っている。
- ② 活動する際にはメンバー全員が同じエプロンをつけている。
- ③ 子育て中の親の手助けをしたいという気持ちで活動している。

成果

- ・子育て中の親を支援する活動が多かったり、メッセージカードを配布したりなど、子育てサポーターの活動を周知できた。
- ・コロナ禍で制限されていた活動が少しずつではあるが再開し、意欲的に取り組めた。

今後の方向性

- ・打ち合わせ会への参加者の減少・固定化が課題となっている。普段と異なる行事を取り入れ、会員や事務局間の交流や情報交換を図ろうと検討中。
- ・コロナ禍で託児支援や制限されていた活動等を徐々に再開していき、また、今後のすまいるハートとしての目的を再度共有し、活動の方向性をしっかりと話し合いたい。



親の学びのプログラム(県主催)



託児支援



メッセージカード作り

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「家庭教育の取組事例」(宮城県柴田町)

取組の概要や経緯

核家族化や多様な就労状況、昨今の感染症の流行などにより、子どもものしつけや教育についての悩みを気軽に相談する相手や場所がなく、孤立傾向にある保護者は少なくない。家庭の教育力向上のため、環境変化のある入学前に、保護者に対し家庭での子どもとの関わり方を学ぶ機会を提供する。また、親同士の交流と主体的な学びの中から、気づきや不安の解消を図り、健全な子育てを行う一助とする。

内容

- (1) 就学時発達検査の待ち時間を活用した「子育て・親育ち講座」
- (2) 中学校入学説明会時に実施する「子育て・親育ち思春期講座」
- (3) 男性保護者に向けた「イクメン講座」
- (4) 宮城県版親の学びのプログラムを活用した「親のみちしるべ出前講座」

ポイント

- (1) 多くの保護者に学びの機会を提供するため、学校に協力してもらい、就学時発達検査の待ち時間や、中学校入学説明会時に実施する。
- (2) 講座の運営は家庭教育支援チームとの協働で実施。
- (2) 広く周知するため、町の広報や、学校や子育て支援センターでチラシの配布、参加の呼びかけを行ってもらう。

成果

- ・子育て・親育ち講座では243名の保護者に、子育て・親育ち思春期講座では167名の保護者に参加していただいた。
- ・アンケートの講座のテーマや内容についての問で、すべての講座のうち94.9%の参加者に「たいへんよかった」または「よかった」と好評をいただいた。
- ・地域のボランティアで構成されている町の家庭支援チームに講師や補助を依頼したことで、顔なじみの参加者もあり、和やかな雰囲気での講座の実施ができた。



今後の方向性

- ・今後も、多くの保護者に家庭教育を実施するため、学校との連携を続け、保護者が集まる機会に講座を実施していきたい。
- ・男性の育児参加の推進を継続する。
- ・学校や関係課、関係施設へのチラシ配布や町広報紙等の紙媒体の広報と、町HPやLINE等を活用したデジタルでの広報を行い、情報取得に格差が出ないように努める。
- ・アンケートや申し込みなど、積極的にICTを活用する。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「家庭教育支援事業の推進」(宮城県丸森町)

取組の概要や経緯

当町では、少子高齢化により、核家族化や共働き世帯が増加しており、家族や地域における教育力の低下も懸念されるなど、子育て家庭を取り巻く環境は大きく変化している。そういった環境の変化に対応するため、家庭教育支援の取組を推進している。

内容

- ・ 家庭の教育力の低下、情報化に伴う様々な青少年問題に対応するため、家庭教育セミナーを開催し、心豊かな子どもたちの育成を図る。
- ・ 家庭教育講演等を支援・推進し、家庭教育の向上を図る。
- ・ 子供の成長・発達を促す読み聞かせ活動の定着化を目指すため、読み聞かせ講座を開催する。また、子どもたちを対象に読み聞かせボランティア講座を開催する。

ポイント

- ・ P T A会員をはじめ、大人を対象に家庭教育セミナーを開催し、心豊かな子どもたちの育成を図る。
- ・ 各単位 P T Aで実施する、家庭教育講演等の開催を支援し、保護者の学習活動の充実を図ることにより、家庭教育の向上を図る。
- ・ 町内保育施設との連携を図りながら読み聞かせ講座を開催する。
- ・ 社会福祉協議会との連携により中高生を対象に読み聞かせボランティア講座を開催する。

成果

セミナー、講演会等の開催により、子どもの心豊かな健全育成を目指し、家庭教育の意義や重要性を認識し、家庭・学校・地域が連携して役割を果たすための共通理解が図られた。



今後の方向性

少子化により子どもの数が減少し、学校再編が行われる等子どもを取り巻く環境が変化しているが、充実した家庭教育支援事業が実施できるよう、今後も家庭・学校・地域が連携を図りながら取り組んでいきたい。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「山元町地域学校協働活動推進事業(家庭教育支援)」(宮城県山元町)

取組の概要や経緯

「地域と学校が一体となって山元の子供を育てるネットワーク」をテーマとして、山元町地域学校協働本部を設立し、協働教育活動を推進している。統括コーディネーター1名、地域コーディネーター3名、生涯学習課が協力・連携しながら事業を推進し、子供たちの育成と地域づくりを目指している。協働教育を推進していく上で、家庭教育はその大きな柱となっており、より子育てしやすい環境を実現しようと取り組んでいる。



ちびっこひろばきらり☆

家庭教育・幼児学級

内容

○ 家庭教育支援

- ・家庭教育支援講座「ちびっこひろばきらり☆」
- ・家庭教育学級・幼児学級の開催
- ・育児サークル「なかよし会」の活動支援

家庭教育・幼児学級

⇒ 家庭教育の重要性の普及啓発、親の学び支援と子育てを支える環境づくりを進める。

○ 家庭教育支援チームの育成

- ・各種研修会への参加、自主事業の実施
- ・「親のみちるべ」の積極的な実施

⇒ 自主的で活発な活動につなげる自己研鑽の機会を設ける。



山元中学校「いのちの教室」

ポイント

- ① こどもセンター、他課室と連携し情報共有することで事業の推進に役立てる。
- ② 幅広い家庭教育支援チームの活動が強みとなり、協働体制が構築できている。
- ③ 生涯学習を通じた人材育成システムを築くことで、人材育成と確保に努める。

成果

- ・家庭教育学級・幼児学級の実施によって、就学前の保護者間及び幼児間の交流と学びの場、就学へ向けての不安解消の場となっている。学校に慣れる機会ともなるため、幼児の不安軽減につながり、小1ギャップの軽減につながっている。保護者にとっても学校関係者等に質問しやすい雰囲気醸成されている。
- ・自主的なイベントを計画するなど、家庭教育支援チームとして意欲的に活動する様子が見られ、他団体と連携しての事業など広がりが生まれている。

今後の方向性

- 家庭教育支援チームを中心に、人材発掘と育成を進め、家庭教育学級等でのファシリテーターとしての力量の向上を目指し、研修と実践を重ねる。
- イベントを通して他団体と連携しての事業などが増えている。イベントに限らず、日常的な取組につなげ、さらに子育てしやすい環境づくりを目指していく。
- 本当に支援が必要な人へ届くアウトリーチ型の支援の形をどのようにして行っていくか検討中である。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「地域学校協働活動推進事業(家庭教育支援活動)」(宮城県七ヶ浜町)

取組の概要や経緯

家庭教育支援チーム員の育成を図り、地域ために貢献できる人材を育むため、「七ヶ浜町子育てサポーター養成講座」(全3回)を実施した。



内容

七ヶ浜町家庭教育支援セミナー「子育て&親育ち応援講座」での学習内容の提供や演習のファシリテーションを行う人材を養成し、家庭教育支援の振興と活動の活性化を図る。



ポイント

- ①町の子育ての現状と県の家庭教育支援についての理解
- ②グループワークや情報交換の時間の設定
- ③町家庭教育セミナーで実施する宮城県のプログラム「親のみちしるべ」の体験

成果

- ・町家庭教育支援チームに受講者2名が入会。チーム員の育成を図ることができた。
- ・町家庭教育セミナーで実施する宮城県のプログラム「親のみちしるべ」を体験することで、町家庭教育支援チームの実践の理解ができたこと。(受講者の感想「親のみちしるべを実施する家庭教育セミナーでの参加者が、子育てを一人で悩まず、参加者同士で共有することで、悩みを解消できる。町家庭教育支援チーム員としては、その一助になれるのではないかと感じた。」)

今後の方向性

- ・家庭教育セミナーを行う前には、事前に自主研修を行うなど、支援チーム員の知識の習得や学び直しを図るとともに、ファシリテーションスキルの向上を図る。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力協力プラン) の取組事例

「家庭教育支援事業」(宮城県利府町)

取組の概要や経緯

近年、核家族化等の家族形態の変容や都市化、少子化が進み、家庭や家族を取り巻く社会状況の変化の中で、家庭の教育力の低下が指摘されている。また、地域のつながりの希薄化を背景に、子育て中の保護者が地域の中で孤立してしまうことが増えてきている。このように、子育て家庭や子供たちを地域全体で見守り支えることの必要性が高まっている中で本町の家庭教育支援事業が開始された。また、平成28年には家庭教育支援チームを立ち上げ、活動を実施している。

内容

- 保護者同士が悩みや不安を共有したりアイデアを得ることで、負担を和らげるとともに、保護者同士のコミュニティづくりを図る。
- 町内で活躍する子育て支援団体の活動の場を創出するとともに、子育てに悩みを抱える保護者の不安解消を図る。
- 家庭教育の学びの場を提供し、家庭教育の基盤を整える。
- 「早寝早起き朝ごはん」等の正しい生活習慣の大切さの啓発を行う。



【支援チームによる
親の学び講座】



【親子参加行事】

ポイント

- ①保護者同士が思いや考え、情報共有できる場を提供し、宮城県版「親のみちしるべ」を活用し参加型のワークショップで保護者自ら今後の子育てに生かせることを学び取る。
- ②専門知識や経験を有する人材を活用することにより、保護者に対して専門的な学びを促す。
- ③出前講座や来年度新1年生へのチラシ配布により、子供たちやその親に対し、正しい生活習慣の大切さを伝える。



【子育て支援団体の講座】

成果

- ・ 孤立している保護者や悩みや不安を持った保護者の課題の解消に繋がっている。
- ・ 子どもたちの成長に応じた親の悩みに対し講師が個別相談を行い、悩みの解消に繋がっている。
- ・ 「コロナ禍での子育て」や「新型コロナウイルス感染症に関する知識」をテーマに事業内容を構成し、今日的課題に悩む保護者を支援した。
- ・ 「早寝早起き朝ごはん」の正しい生活習慣の啓発ができた。

今後の方向性

- ・ 受講者同士でのディスカッションや参加体験型の講座等、参加者が主体的、かつ相互に学び合う学習方法の講座を積極的に取り入れる。
- ・ 他課との連携を図り、町内の様々な場面で家庭教育支援チームの活躍の場を増やす。
- ・ 家庭教育チームメンバーを増員・育成する。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「町は学校」学校・家庭・地域が連携した教育活動 (宮城県大和町)

取組の概要や経緯

家庭教育推進事業では、家庭・地域・学校と協働し、子育てしやすい環境を整え、安心して子どもを生み育てる環境づくりに努め、子育ての支援と親の学びを図ることを目的にたいわ家庭教育サポートチームを設置し、各種事業を行っている。

内容

○子育て講座 ○幼児学級 ○にこにこままサロン ○遊び場どうじょ！
○たいわ家庭教育サポートチーム事業 ○家庭教育支援広報誌「までえに」の発行
町内の子育て世代を対象に、子育てサポーターやサポートチームとの交流や参加者同士の交流を図ることで、子育てに関わる不安や心配が少しでも軽減されるよう活動を行っている。今年度は感染症対策を講じながらの事業実施となったが、事業の実施には、たいわ家庭教育サポートチーム、子育てサポーター「ままサポどれみ♪」の尽力が大きく、講座の運営や参加者との交流、見守り託児など、様々に活躍している。

ポイント

- ①活動及び学校毎に記録写真を用いた「活動啓発報告カレンダー」「協働教育ニュース」を発行、配布し、活動の様子を共有している。
- ②サポートチーム員として、社会福祉協議会や民生委員・児童委員、町内児童館など、活動に関わる各団体の担当者が集まり話し合うことで、年間の活動の把握と支援体制を整えている。
- ③「子育て通信」を隔月で発行し、児童支援センターや児童館、町内保育園など町内の子育て施設のイベントをカレンダー形式で掲載。コラムや子育て体験談も掲載している。

成果

- ・活動を通してボランティアと親たちが顔見知りになることにより、地域で子育てしやすい環境づくりへ貢献している。
- ・「遊び場どうじょ！」では、野外で思い思いの遊びを満喫することができ、良い体験学習の機会となった他、参加者同士の交流も多くみることができ、地域力の強化に繋がった。
- ・子育て中の親へ学習の機会を提供することができた。

今後の方向性

- ・子どもを地域全体で育むために、各地区の特徴を活かした活動を支援する。
- ・地域間の人材不足や人数の格差の解消に向けて、地域を越えた活動についても促進する。
- ・サポートチーム員として活動できる人材の育成を図り継続した取り組みとして今後も取り組んでいく。



「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「地域で取組む家庭教育支援」(宮城県大郷町)

取組の概要や経緯

○大郷町の子どもたちが、大郷町の自然や 歴史、文化と同じ地域に住む人々を愛しむことができるように、学校・家庭・地域の強い絆のもとで、家庭だけでなく地域全体で子どもたちを心身ともに健やかに育てていくことを目指している。

内容

- 学校・地域・家庭の三者を結びつなげる事業
 - ・環境整備ボランティアとして、学校と地域の方々、保護者たちが協力し、児童生徒が使う小・中学校の学習園耕起ボランティア事業を実施
- みんなで子育てを学ぶ研修会
 - ・大郷町子どもの心のケアハウス「とらいあぐる」と連携し、愛着形成や自立支援について学ぶ研修会の実施
- 体験活動で親子の絆構築
 - ・親子ドローン体験会として、最先端技術を体験しながら親子のコミュニケーションを促進

ポイント

- ①子育て中の保護者だけでなく、おじいちゃんおばあちゃん世代も参加。
- ②学校と地域が関わりあう機会を設ける。
- ③座学の学びだけでなく、体を動かす学び、体験する学びを取り入れる。

成果

- 事業をとおして学校・地域住民・保護者の間につながりが生まれ交流する機会を提供できた。
- 学校活動に地域住民が加わることで、地域全体で子どもを育てる意識を再確認する機会となった。



今後の方向性

- 学校と地域、行政による連携がさらに図れるような体制の構築を目指す。
- 新型コロナウイルス感染症等の社会情勢に合わせた企画と活動を実施していく。
- 子育て支援チームやボランティアの増加と育成を進めていく。
- 負担が偏らない支援体系の形成を図る。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「色麻町地域学校協働活動推進事業【家庭教育支援事業】」(宮城県色麻町)

取組の概要や経緯

平成17年度から継続している【学校支援】【地域活動支援】【家庭教育支援】の活動を、平成23年度より「協働教育プラットフォーム事業」として実施してきた。

平成29年度より、「地域学校協働活動」として、学校や地域、関係者の連携・協働を強化し、一体的な活動を推進できる体制づくりを目指した。



内容

【学校支援】【地域活動】【家庭教育支援】の各活動分野のコーディネーターと「地域学校協働本部」の企画・調整のもと、各種事業を実施した。

【家庭教育講演会】：幼稚園児、小学生、中学生の保護者を対象に、各施設に赴き家庭教育に関する講演会を実施。

【情報提供】：広報誌の発行(年4回)、掲示板での情報提供(公民館のホールに設置)



ポイント

- ・各分野のコーディネーターを中心に密に連絡・調整を行い、事業の企画運営を行った。
- ・支援チーム員が密な連絡を行い、共通理解を持った上で、事業を進めた。

成果

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度も中止となった事業(家庭教育講演会)があったが、代替え事業として別の形(紙面での家庭教育に関する情報提供)で家庭教育に関する情報提供を図った。
- ・家庭教育支援チーム員が密に連絡を取り合いながら事業を進めたので、共通認識を持ち、円滑に活動に取り組むことができた。

今後の方向性

- ・来年度もコロナ禍の中でどのように事業を運営していくか、チーム員内でも引き続き検討し、反省を活かしながら、事業を進めていく。
- ・養成講座などに参加し、家庭教育について学びながら今後の活動に繋げていくことが必要。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「家庭教育支援事業の取組事例(保健講話)」(宮城県加美町)

取組の概要や経緯

加美町では令和3年2月に家庭教育支援チーム「カミュウ」を結成し、学校・家庭・地域において求められる支援活動をスタートさせた。折しも、新型コロナウイルス感染症により活動が制限された中、令和3年度の「生理の貧困対策のための児童生徒への生理用品の配布事業」の実施に伴い、小学校高学年を対象に二次性徴への正しい知識を学ぶため「保健講話」を実施。令和4年度は、生理用品の配布は行わず、「保健講話」を継続している。

内容

助産師を講師に迎え、各小学校を会場に「保健講話」を開催。男女一緒にお互いの二次性徴について学ぶ。(講話30分、生理用品の説明15分)

生理用品の説明は家庭教育支援チームが行い、たくさんの種類やサイズを準備し、体調の変化などを含めた内容で、男女それぞれに寄り添った支援を行っている。

ポイント

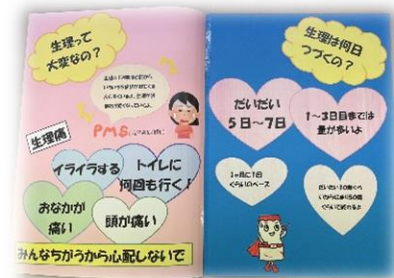
- ①親と子が一緒に学ぶ機会を提供し支援するため、学校側には、出来る限り授業参観や学年PTCでの日程調整を依頼。(保護者アンケートを実施)
- ②講話内容において、どうしても男の子が恥ずかしさを感じるため、会場には必ず男性教諭の参加をお願いしている。
- ③生理用品の説明は、男女別に1グループ6名程度としサイズ種類を豊富に揃え沢山の品に触れられるようまた、値段を表示する工夫も行っている。



生理用品の説明



生理用品関連グッズ



テキスト

成果

二次性徴については、親子であってもとてもデリケートな話題で、こういう機会を小学校高学年で提供でき、こどもたちの不安の解消に繋がっていると感じられた。参加された保護者からは男の子の事も女の子が理解する機会があり、今後も継続してほしいとの要望をいただいた。

今後の方向性

小学校の保健講話については、参観日等を活用した親子の学びの場を提供し支援を継続していく。また、福祉関連との連携を強化し家庭教育に関わらず支援を求められる事業に対し、柔軟な対応ができる体制を整えていく。定例会での研修会を積極的に開催し、チーム員のスキルアップを図るとともに、人材確保に務める。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「元気わくやふれあい町づくり事業」(家庭教育支援)(宮城県涌谷町)

取組の概要や経緯

平成22年9月に元気わくやふれあい町づくりサポートセンターを立ち上げ、学校支援本部事業として開始した。
支援対象は町内全ての小中学校及び幼稚園等まで展開し、学校支援や放課後子ども教室・家庭教育支援を地域住民と協働し推進している。
涌谷町家庭教育支援チームは、平成22年同時、すでに活躍していた2つの子育て支援サークルに協力いただき活動を開始した。

内容

子育て支援サポーターリーダーを中心に、幼稚園等の保護者に親の学びのプログラム「親の道しるべ」事業を提供し家庭教育支援を行う。
また、各種研修会に参加し、地域住民や幼稚園・学校と連携をとり学びの機会を提供している。

ポイント

- ・町内幼稚園に親の学びのプログラム「親の道しるべ」事業を提供する。
- ・チーム員のスキルアップを図るため研修会を行う。

成果

令和4年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点から「親の道しるべ」事業等を開催することはできなかった。
涌谷町家庭教育支援チーム員のスキルアップを図るため、講師を招き親の学びのプログラム「親の道しるべ」事業を実際に体験する研修を行った。



今後の方向性

- ・研修会を開催し、チーム員のスキルアップを図るとともに、地域人材の育成、発掘に努め、また保護者にも参加を促し、家庭教育の推進を図る。
- ・家庭教育支援について、幼稚園等に出向き「親の学び」の機会を提供する。
- ・『できる支援をできるときに、できることから』を合言葉に地域住民の協力をもらいながら、よりよい協働教育の推進を図る。
- ・子育てサポーターリーダーやサポーターの育成に努める。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域における家庭教育支援基盤構築事業の取組事例

「女川町協働教育プラットフォーム事業[家庭教育支援]」(宮城県女川町)

取組の概要や経緯

安心して子育てができる環境を整えること、震災で崩壊した地域コミュニティを形成することを目指してきた。家庭教育上の諸問題を解決できるよう、親同士が交流できる場の提供や、親子で参加できる事業の推進を行った。



内容

各子育て世代に合わせた講座を提供し、家庭教育上の課題を解決できるヒントを学んだり、同世代の親が交流できたりする場を設けた。また、親子アドベンチャークラブでは、父親が活躍できる講座を提供した。

- 薬物乱用防止教室：小学6年
- 情報モラル教室：小学3年
- 情報モラル教室：小学5年
- 幼児保護者対象「行ってみっぺし!!」
- 卒業記念コサージュ作り：小学6年
- 「学ぶ土台づくり」圏域別親の学び研修会「親と子のコミュニケーション」
- おかあさん学級 (①子供と楽しむ“リトミック”へおいでよ!! ②食育：米粉を使ったおやつ・料理づくり ③みんなでウキウキ フラダンス!!)
- 子育てママ・パパ応援講座 (①花育：お家に花を飾る入門編!! ②食育：薬膳料理にチャレンジしませんか? ③親子で語りかける英会話レッスン ④健育：親子で楽しむクラシックバレエ)
- 幼児期・学齢期協働家庭教育学級(女川・ふるさと 海の体験教室)
- 親子アドベンチャークラブ (①火起こし体験 ②カヌー体験 ③奥清水沢登り・沢遊び体験)



ポイント

- ①子育て支援センターと連携し、事業を開講。
- ②自然の中での活動や、実習・体験を中心にした講座による、和やかな雰囲気での交流。
- ③小1プロブレムに対応するために、新入学児童の保護者を対象に入学後の取組や読書習慣・運動習慣の大切さなどを説明する講座を小学校と連携し実施。

成果

子育てをしている世帯がつながり、子育てに関する情報交換や悩みの共有を行う様子が見られた。また、各支援団体や行政サービス、家庭教育に関する研修プログラムをお知らせできる機会が増え、町民と行政が身近な存在となった。成長の発達段階に応じた講座により、保護者の不安解消につながっている。

今後の方向性

- ・事業を見直し、統合できるものは統合し、不足している分野は、新規事業を開講するなどを考える必要がある。
- ・学校や保育所と連携し、不安を抱えているが、参加に対して消極的な保護者にも支援の手が届くようにしたい。
- ・子育て支援チームが発足できるよう、家庭教育支援員となりうる人材を探す。